

2006年5月24日

## 第1回三井物産環境基金セミナー ～環境と経済～

2006年5月24日(水)13:30～15:35に、マンダリン オリエンタル 東京で開催された第1回三井物産環境基金セミナーに参加した。

プログラムは次の通りである。

13:30～13:35 主催者挨拶

三井物産株式会社代表取締役専務執行役員

三井物産環境基金評議委員長 横手康紀

13:35～14:05 「経済発展と食糧・エネルギー・環境問題～経済の視点から～」

株式会社三井物産戦略研究所所長 寺島実郎

14:05～15:05 「経済発展と食糧・エネルギー・環境問題～地球環境の視点から～」

米国アースポリシー研究所所長 レスター・ブラウン氏

15:05～15:35 レスター・ブラウン氏への質疑応答

横手康紀氏からは三井物産(株)が環境基金創設の狙い、その現状と将来について説明があった。

寺島実郎氏は同氏の作成した「世界潮流と日本の針路を考える基本資料」をベースに説明があった。まず、世界経済の現状について「高成長の同時化の持続」と位置づけ、世界GDP(すなわち地球全体での成長)は2004年 3.8%、2005年 3.4%、2006年(予測)3.5%で、3%を超える成長が持続しており、特に、BRICSの寄与が大きい。

BRICSの実質成長率

	ブラジル	ロシア	インド	中国
2004年	4.9%	7.2%	6.9%	10.1%
2005年	2.3%	6.4%	7.9%	9.9%
2006年予測	3.5%	6.2%	7.3%	9.1%

この好況が持続する要因として次の5項目を挙げ、個々について説明した。

グローバル化とIT革命要因

世界人口の持続的拡大(1年で1億人増加)

戦争経済という要素(米国の軍事費 2000年 2945億ドルから 2006年 5359億ドルへ拡大)

世界的低金利(金融要素)

オイルマネー(中東産油国の石油収入 2005年 3000億ドル、2006年 4500億ドル)

そして、3E (Economy, Environment, Energy)のバランスのとれた持続可能な成長こそ21世紀の世界にとって重要であると述べた。

レスター・ブラウン氏は彼の近著「プランB2.0」の内容を中心に講演された。「昨日の続きは今日、今日の続きは明日」というように、20世紀の延長で運営していくな（これをプランAと呼ぶ）、環境の悪化により、世界経済は衰退し、ついには崩壊するだろう。これに警鐘を鳴らし解決の方向を示すため、2003年に『プランB』を発表した。更に、それを改定し今回、『プランB2.0』を発表するに至ったと述べた。石油（ピークオイル）、水不足、食料難、地球温暖化、原子力、貧困などについて『プランB』の取り組みについて概説された。「経済の衰退と文明の崩壊を回避するためにはわれわれ一人一人がグラウンドに出て、それぞれの役割を果たすことである。」そして最も重要な課題は『税制改革』と『財政の優先順位の見直し』であると結論付けた。

両氏の詳細なデータの裏づけによる講演を聴いて『プランA』から『プランB』へのパラダイムシフトの重要性とそのための時間はあまり残されていないことを理解した。

